

⑥ プログラムを構成する授業の内容

授業に含まれている内容・要素	授業に含まれているスキルセットのキーワード
(1) 現在進行中の社会変化(第4次産業革命、Society 5.0、データ駆動型社会等)に深く寄与しているものであり、それが自らの生活と密接に結びついている	1-1 ・ビッグデータ、IoT、生成AI、ロボット「データリテラシー演習」(1回目) ・Society5.0、データ駆動型社会「データリテラシー演習」(1回目)
	1-6 ・AI最新技術の活用例(深層生成モデル、強化学習、生成AIなど)「データリテラシー演習」(3回目) ・AI等を活用した新しいビジネスモデル(シェアリングエコノミー、商品のレコメンデーションなど)「データリテラシー演習」(4回目) ・大規模言語モデル「データリテラシー演習」(2回目)
(2)「社会で活用されているデータ」や「データの活用領域」は非常に広範囲であったり、日常生活や社会の課題を解決する有用なツールになり得るもの	1-2 ・調査データ、実験データ、ログデータ「データリテラシー演習」(7回目) ・データのオープン化(オープンデータ)「データリテラシー演習」(7回目)
	1-3 ・データ・AIの活用領域の広がり「データリテラシー演習」(4回目) ・判断支援、活動代替、新規生成など「データリテラシー演習」(4回目) ・対話、コンテンツ生成、翻訳・要約・執筆支援、コーディングなど生成AIの応用「データリテラシー演習」(4回目)
(3) 様々なデータ活用の現場におけるデータ活用事例が示され、様々な適用領域(流通、製造、金融、サービス、インフラ、公共、ヘルスケア等)の知見と組み合わせることで価値を創出するもの	1-4 ・データ解析: 予測、グルーピング、パターン発見、最適化、シミュレーション「データリテラシー演習」(3回目) ・今のAIに出来ることとできないこと、AIとビッグデータ「データリテラシー演習」(4回目) ・マルチモーダル(言語、画像、音声など)、生成AIの活用(プロンプトエンジニアリング)「データリテラシー演習」(2回目)
	1-5 ・教育、芸術、流通、製造、金融、サービス、インフラ、公共、ヘルスケア等におけるデータ・AI活用事例紹介「データリテラシー演習」(4回目)
(4) 活用に当たった様々な留意事項(ELSI、個人情報、データ倫理、AI社会原則等)を考慮し、情報セキュリティや情報漏洩等、データを守る上での留意事項への理解をする	3-1 ・倫理的・法的・社会的課題(ELSI: Ethical, Legal and Social Issues)「データリテラシー演習」(5回目) ・個人情報保護「データリテラシー演習」(6回目) ・データ倫理: データのねつ造、改ざん、盗用、プライバシー保護「データリテラシー演習」(6回目) ・AI社会原則(公平性、説明責任、透明性、人間中心の判断)「データリテラシー演習」(6回目) ・AIサービスの責任論「データリテラシー演習」(5回目) ・データバイアス「データリテラシー演習」(5回目) ・生成AIの留意事項(ハルシネーション、偽情報や有害コンテンツの生成・氾濫など)「データリテラシー演習」(5回目) ・データ・AI活用における負の事例紹介「データリテラシー演習」(5回目)
	3-2 ・情報セキュリティの3要素(機密性、完全性、可用性)「データリテラシー演習」(6回目) ・情報漏洩等によるセキュリティ事故の事例紹介「データリテラシー演習」(6回目)
(5) 実データ・実課題(学術データ等を含む)を用いた演習など、社会での実例を題材として、「データを読む、説明する、扱う」といった数理・データサイエンス・AIの基本的な活用法に関するもの	2-1 ・データの分布と代表値「データリテラシー演習」(9回目) ・代表値の性質の違い「データリテラシー演習」(9回目) ・データのばらつき、外れ値「データリテラシー演習」(9回目) ・相関と因果「データリテラシー演習」(11回目) ・統計情報の正しい理解「データリテラシー演習」(10回目)
	2-2 ・データの表現「データリテラシー演習」(10回目) ・不適切なグラフ表現「データリテラシー演習」(10回目) ・相手に的確かつ正確に情報を伝える技術や考え方「データリテラシー演習」(13・14回目)
	2-3 ・データの取得(機械判読可能なデータの作成・表記方法)「データリテラシー演習」(8回目) ・データの集計(和、平均)「データリテラシー演習」(9回目) ・データ解析ツール(スプレッドシート)「データリテラシー演習」(8~12回目)

⑦ プログラムの学修成果(学生等が身に付けられる能力等)

<p>1. データ・AIによる社会変化を自分事として捉え、興味関心を持って主体的に知識を習得し活用できる。</p> <p>2. データ・AIの活用領域の広がりを理解し、その価値を具体的な事例を用いて説明できる。</p> <p>3. データの収集、読み取り、分析ができ、適切な可視化手法を用いて他者に説明できる。</p> <p>4. データ・AI活用に関するリスク・モラルの基礎知識を習得し、これらを適切に利活用できる。</p>

リテラシーレベルのプログラムの履修者数等の実績について

①プログラム開設年度

令和7年度(和暦)

②履修者・修了者の実績(「学生数」「入学定員」「収容定員」は令和7年5月1日時点で記載)

学部・学科名称	学生数		入学定員	収容定員	令和7年度		令和6年度		令和5年度		令和4年度		令和3年度		令和2年度		履修者数合計	履修率
	うち女性				履修者数	修了者数												
法学部・法律学科	816	144	220	890	164	0											164	18%
経済経営学部・経済経営学科	979	168	210	890	229	200											229	26%
メディア情報学部・メディア情報学科	628	199	140	590	146	0											146	25%
スポーツ科学部・スポーツ科学科	884	149	200	800	186	171											186	23%
心理学部・心理学科	624	360	140	570	132	0											132	23%
																	0	#DIV/0!
																	0	#DIV/0!
																	0	#DIV/0!
																	0	#DIV/0!
																	0	#DIV/0!
																	0	#DIV/0!
																	0	#DIV/0!
																	0	#DIV/0!
																	0	#DIV/0!
																	0	#DIV/0!
																	0	#DIV/0!
																	0	#DIV/0!
																	0	#DIV/0!
																	0	#DIV/0!
合計	3,931	1,020	910	3,740	857	371	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	857	23%

教育の質・履修者数を向上させるための体制・計画について

① 全学の教員数

(常勤)	123	人
(非常勤)	150	人

② プログラムの授業を教えている教員数(令和7年度)

5	人
---	---

③ プログラムの運営責任者

(責任者名)	船場ひさお
(役職名)	情報処理教育センター長

④ プログラムを改善・進化させるための体制(委員会・組織等)

(名称)	情報処理教育センター運営会議
------	----------------

⑤ プログラムを改善・進化させるための体制を定める規則名称

(名称)	情報処理教育センター規程 情報処理教育センター運営会議細則 「数理・データサイエンス・AI教育プログラム」 について(申し合わせ)
------	--

⑥ 体制の目的

駿河台大学における情報処理基礎教育を一元的な組織の下で、統一かつ円滑に実施し、学生の情報処理能力を向上させること及び本学の数理・データサイエンス・AI教育を推進するため、本プログラムの自己点検・評価等により改善・進化に向けた取組を行うことを目的とする。

⑦ 具体的な構成員

情報処理教育センター長・メディア情報学部教授 船場ひさお
 法学部教授 菊田秀雄
 法学部講師 黒木美來
 経済経営学部教授 孔炳龍
 経済経営学部准教授 太田康友
 メディア情報学部准教授 竹内俊彦
 メディア情報学部助教 高田昌裕
 スポーツ科学部教授 天野宏司
 スポーツ科学部准教授 小丸超
 心理学部教授 和智妙子
 心理学部准教授 村井千寿子
 情報処理教育センター准教授 内田いづみ
 情報処理教育センター助教 新井葉子
 情報処理教育センター助教 大西未希
 情報処理教育センター助教 濱野和人
 情報処理教育センター助教 藤野真行
 メディアセンター事務部長 谷萩行長
 副学長(教務担当)・法学部教授 朴昌明
 学務部長 斎藤文洋

⑧ 履修者数・履修率の向上に向けた計画

令和7年度履修率	23%
令和8年度予定	50%
令和9年度予定	75%
令和10年度予定	100%
令和11年度予定	100%

具体的な計画

令和6年度(2024年度)以降入学者は全ての学部・学科で「データリテラシー演習」を2学年の必修科目としているため、基本的には年度進行に伴い全ての学生が卒業までに履修することになり、履修率100%となる計画である。

⑨ 学部・学科に関係なく希望する学生全員が受講可能となるような必要な体制・取組等

令和6年度(2024年度)以降入学者は全ての学部・学科で「データリテラシー演習」を2学年の必修科目としているので、学生全員が受講可能となる。また、「データリテラシー演習」を行うパソコン教室には一人1台パソコンを用意しており、全ての学生に適切な学習環境を提供している。

⑩ できる限り多くの学生が履修できるような具体的な周知方法・取組

令和6年度(2024年度)以降入学者は全ての学部・学科で「データリテラシー演習」を2学年の必修科目としているので、学生全員が履修できる。入学後の新入生ガイダンス及び年度初めに実施する学年別ガイダンス等で説明するとともに、シラバス及び履修ガイド等でプログラム科目の意義、身に付く能力を周知している。

⑪ できる限り多くの学生が履修・修得できるようなサポート体制

授業内では学生アシスタント(Student Assistant)を各回に1名配置し、PC操作やデータ分析演習のサポートやグループワークのファシリテートを行っている。授業外では、情報処理教育センター窓口において「データリテラシー演習」の担当教員による学習相談を随時受け付け、課題作成や欠席時のフォローアップなどを個別に支援している。

また、Microsoft365包括ライセンス契約により、Word・Excel・PowerPoint等のソフトウェアを全学生が無償で利用できるほか、メディアセンター内には自由に利用可能な共用パソコンを多数設置している。授業資料や課題は学習管理システムMoodle上で公開し、学生は自宅からもアクセス可能である。

本科目は全学必修科目として開講しており、原則として全ての学生が履修することになるが、他科目との重複を避けるため、一部学部では履修クラスを選択できる体制としている。これにより、学生の時間割や履修計画に配慮しつつ、学修機会の均等化を実現している。

⑫ 授業時間内外で学習指導、質問を受け付ける具体的な仕組み

⑪にも記載した通り、授業中は担当教員が机間巡視を行い、PC操作や課題内容などに関する質問にその場で対応するとともに、学生アシスタント(Student Assistant)が個々の学生やグループに対して補助的な支援を行っている。授業外では、情報処理教育センター窓口において科目担当教員が事前予約不要で随時相談・質問を受け付けている。相談内容は教員間で共有し、必要に応じて支援の充実や授業設計の改善に反映している。学生からの質問は、メールでも受け付けるほか、学習管理システムMoodle上での課題提出に対して教員が個別フィードバックを行っている。

自己点検・評価について

① プログラムの自己点検・評価を行う体制 情報処理教育センター運営会議

(責任者名) 船場ひさお
 (役職名) 情報処理教育センター長

② 自己点検・評価体制における意見等

自己点検・評価の視点	自己点検・評価体制における意見・結果・改善に向けた取組等
学内からの視点	
プログラムの履修・修得状況	本プログラムの履修・修得状況は、出席管理システムによる出欠状況および学習管理システム(Moodle)のアクセスログや課題提出状況により把握している。これらの情報は教務課職員やゼミ担当教員も参照可能で、欠席者の早期把握や学習支援につなげている。令和7年度(2025年度)春学期の単位修得率は、経済経営学部87.7%、スポーツ科学部91.3%であった。履修率は、クラス指定の必修科目であるため休学者を除く2年生全員が履修している。学期末には、担当教員が成績評価状況や出席状況をまとめた「実施報告書」を作成し、教授会で全学部で共有している。また、約2か月に1回の頻度で担当教員によるFDを実施し、授業運営の状況報告や課題共有を行い、授業改善に活かしている。
学修成果	成績評価は、実習やワークの取り組み状況、プレゼンテーション、用語理解を測る期末試験などを総合的に判断し、絶対評価で行っている。令和7年度(2025年度)春学期の成績評価分布は、経済経営学部がA34.6%、B32.4%、C13.5%、D7.0%、F12.2%、スポーツ科学部がA25.8%、B30.1%、C19.3%、D16.1%、F8.6%であり、両学部とも半数を超える学生がAまたはBの良好な成績であった。課題提出や理解度が十分でない学生には、情報処理教育センター窓口で個別支援を行い、学修到達度の向上を図っている。成績評価分布や履修者の状況は、情報処理教育センターFD、数理・データサイエンス・AI教育運営会議を通じて関係教職員と共有し、授業内容や評価方法の改善に活用している。
学生アンケート等を通じた学生の理解度	本学では、全学的に学期末の授業アンケートを実施しており、本プログラムでは「Q7: 担当教員の説明の分かりやすさ」「Q12: 知識や技術が身につけてきていると感じるか」「Q14: 授業に対する満足度」などの設問を通じて学生の理解度を把握している。令和7年度(2025年度)春学期の結果では、授業進度は適切で、教員の説明は概ねわかりやすく、配付資料も授業理解に役立っているとの回答が多く見られた。一方で、知識や技術の習得実感については個人差がみられる。授業アンケートの結果は担当教員によるFDで共有し、シラバスや教材の改善に活用している。加えて、各回で確認問題やリアクションペーパーを実施し、学生の理解度や反応を把握しながら授業運営を行っている。
学生アンケート等を通じた後輩等他の学生への推奨度	授業アンケートでは、後輩等他の学生への推奨度に関する質問は設けていないが、「Q7: 担当教員の説明の分かりやすさ」や「Q14: 授業に対する満足度」の結果はどれも全学平均を上回っており、本プログラムの授業に対する学生の評価は総じて高い。これらの結果から、後輩学生への推奨度も高いものと推察される。
全学的な履修者数、履修率向上に向けた計画の達成・進捗状況	令和6年度(2024年度)の全学的なカリキュラム改訂において、本プログラムの「データリテラシー演習」を全学部共通の2年次必修科目として新設した。これにより、令和7年度(2025年度)からは計画どおり全学部で同科目を開講しており、休学者を除く全学生が履修している。開講にあたっては、他科目との重複を避けるために曜日・時限を調整し、一部学部では履修クラスを選択できる体制としたことで、学生の時間割や履修計画に配慮しつつ、学修機会の均等化を実現している。今後も履修状況や授業運営の実績を情報処理教育センター運営会議やFDを通じて検証し、授業規模やクラス編成の最適化を図っていく。

自己点検・評価の視点		自己点検・評価体制における意見・結果・改善に向けた取組等
学外からの視点		
教育プログラム修了者の進路、活躍状況、企業等の評価		本プログラム科目を履修している学生は在籍中のため社会での活躍状況及び企業等の評価を得られていないが、今後、本プログラム科目を履修した卒業生の状況について企業等に対してアンケート等を通じて評価をいただき、改善・進化に資する予定である。
産業界からの視点を含めた教育プログラム内容・手法等への意見		本プログラム科目は専任教員5名が担当し、企業等での勤務経験も含め様々な経歴のある教員により、社会や産業界での求められる知識、能力等を把握し、実社会で役立つ内容の講義を展開している。今後も産業界が求める人材像について意見を求め、プログラムに反映する予定である。
数理・データサイエンス・AIを「学ぶ楽しさ」「学ぶことの意義」を理解させること		授業の導入では、Society5.0時代に求められる力や社会の姿を提示し、数理・データサイエンス・AIの基礎的素養は文理を問わず必要となる力であることを説明している。そのうえで、学部の専門分野や将来の進路と関連付けながら、AI活用事例の調査やディープフェイク、フィルターバブルなど身近な話題を題材に、数理・データサイエンス・AIを自分ごととして捉えられるよう工夫している。AIへの関心の高さを踏まえ、生成AIを実際に操作する体験的実習の時間を設けるとともに、グループワークやディスカッション、プレゼンテーションを積極的に取り入れた参加型授業を展開している。
内容・水準を維持・向上しつつ、より「分かりやすい」授業とすること ※社会の変化や生成AI等の技術の発展を踏まえて教育内容を継続的に見直すなど、より教育効果の高まる授業内容・方法とするための取組や仕組みについても該当があれば記載		数学やデータ分析に苦手意識を持つ学生にも理解しやすい授業を重視している。AIの仕組みやデータ分析の解説では、数式の使用を控え、図解や実例を多用して概念的に理解できるよう工夫している。全学部の1年次必修科目でPCとOfficeソフトの基本操作を学ぶが、操作に不安を持つ学生も多いため、既習内容も丁寧に扱っている。各授業には学生アシスタント(Student Assistant)を配置し、PC操作やワークをきめ細かく支援して理解を補っている。教材や講義スライドはMoodle上で公開し、欠席者を含めた全学生がいつでも確認できる環境を整備している。さらに、AIやデータ技術の進歩や社会的トレンドの変化に対応し、担当教員間で情報共有を行い、教材や実習内容を随時アップデートしている。

科目名	データリテラシー演習
単位数	2単位
担当者	内田いづみ、濱野和人、新井葉子、大西未希、藤野真行
授業種別	演習科目

サブタイトル	適切にデータ・AIを利活用できる駿大生になろう！
授業内容	<p>データサイエンスやAIはITの専門家が使うものと思われるかもしれませんが、企業活動、行政から個人まで幅広く利活用は広がっています。例えば、通販サイトの「あなたへのおすすめ」機能はデータサイエンスやAIによる画像認識技術によるものですし、スマートウォッチの生体情報で健康管理をしたり、ChatGPTを利用したことがあるかもしれません。</p> <p>今後さらにAIによるビッグデータ解析は新たな価値を生み、より暮らしやすい社会=Society 5.0時代を迎えると期待されています。但し、このデータ駆動社会で人間中心の適切な意思決定を実現するためには、文系理系問わず、リスク等を把握しながら技術を活用するデータリテラシーが必須となるでしょう。</p> <p>本科目では、社会におけるデータ・AIの活用方法やデータ・AIを利活用する際のモラル・リスクについて考えます。また、Excelを使用した初歩的なデータ分析を行いながら、データの収集と分析の基礎的な知識とスキルを習得します。本科目ではグループワーク等のアクティブ・ラーニングを取り入れることで実践的に学びます。文系学生にもわかりやすく解説しますので、数理・データサイエンス・AIの初歩を一緒に楽しく学びましょう。</p>
アクティブ・ラーニングの要素	反転学習／グループワーク／プレゼンテーション／実習・実技
到達目標	<p>次の4つの目標達成を通じて、データ・AIによる社会の変化、データ・AI利活用のモラルとリスク、データ分析の基礎的な知識とスキルについて学び、自信を持って前向きにデータ・AIを利活用できるようになる。また、15回の学習を通じて、非言語処理力、情報収集力、情報処理力、主体的行動力、自信育成力、チームワーク力、課題発見力を身につける。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. データ・AIによる社会の変化を自分事として捉え、興味関心を持って主体的にデータ・AIの知識を習得し、活用できる。 2. データ・AIの活用領域の広がりを理解し、データ・AIを活用する価値を具体的な事例を挙げて説明できる。 3. データの収集、読み取り、分析ができ、適切な可視化手法を用いて他者に説明できる。 4. データ・AI利活用の際のリスクやモラルについて理解し、これらを適切に利用するための基礎知識を習得する。
到達目標となる駿大社会人基礎力	②非言語処理力／③情報収集力／⑤情報処理力／⑦主体的行動力／⑨自信育成力／⑫チームワーク力／⑬課題発見力
卒業認定・学位授与方針との関連	この科目は、ディプロマ・ポリシー（全学）の「(1) 基礎的な力」「(2)考える力」「(3)行動に移す力」「(4)協働する力」に関連しており、Society5.0時代の人材に必要なデータリテラシーを修得しながら、駿大社会人基礎力を養います。
関連科目	「コンピュータ・リテラシーⅠ」および「コンピュータ・リテラシーⅡ」と関連します。

テキスト・参考書等

書名	著者	出版社	ISBN	備考
—	—	—	—	テキストはありません。資料等は適宜Moodleで公開します。

授業外における学習方法及び必要な時間	<p>本科目は反転授業形式（予習をしていることを前提とした授業）で行います。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・指示された予習課題に取り組み、次回の授業内容について予習する（2時間） ・指示された復習課題に取り組み、授業で学習した内容について復習する（2時間）
--------------------	---

成績評価方法

評価方法	評価割合	成績評価基準等
提出物	50%	授業内外で行う実習やワークの取り組み状況により、到達目標を総合的に評価する。
プレゼンテーション課題	20%	授業内で行うスライド作成の取り組み状況や発表内容により、到達目標を総合的に評価する。
期末試験	30%	授業内で扱った用語に関する総括テストの実施により到達目標を評価する。
その他関連する事項	-	原則として欠席回数が3回を超えた場合、単位は修得できません。

課題に対するフィードバックの方法	提出された課題やリアクションペーパーに対して、Moodleまたは授業内で適宜フィードバックを行います。
------------------	---

実務経験のある教員による授業科目等

担当教員の実務経験	実践的な教育の取組
-----------	-----------

授業計画	
第1回	数理・データサイエンス・AIを学ぶ意義、Excel基本操作の確認
第2回	社会におけるデータ・AI活用①：生成AIの活用実習
第3回	社会におけるデータ・AI活用②：生成AIの活用方法と課題
第4回	社会におけるデータ・AI活用③：AI活用の事例と最新動向
第5回	データ・AI活用における心得①：ELSIと個人情報
第6回	データ・AI活用における心得②：データ倫理とAI社会原則
第7回	データリテラシー①：e-Statを使用したデータの収集
第8回	データリテラシー②：データ分析の準備
第9回	データリテラシー③：データの特徴を見る（代表値、中央値、最頻値、標準偏差など）
第10回	データリテラシー④：データを表現する（各種グラフ、クロス集計など）
第11回	データリテラシー⑤：データの間係を分析する（変数、散布図、相関係数など）
第12回	データリテラシー⑥：演習問題
第13回	総合演習①：プレゼンテーション準備
第14回	総合演習②：プレゼンテーション発表
第15回	科目総括

1. 法学部法律学科（令和6年度以降入学者適用）

◎印は必修科目

科目群		授業科目（単位数）		卒業要件単位	
基礎教育科目群		◎法学入門A (2)	◎プレゼミナールⅠ (2)	必修14単位	
		◎プレゼミナールⅡ (2)	◎プレゼミナールⅢ (2)		
		◎プレゼミナールⅣ (2)	◎コンピュータ・リテラシーⅠ (1)		
		◎コンピュータ・リテラシーⅡ (1)	◎データリテラシー演習 (2)		
キャリア教育科目群		◎キャリア基礎Ⅰ (2)	キャリア基礎Ⅱ (2)	必修4単位を含む6単位以上	
		キャリア発展 (2)	ライフプランニング (2)		
		◎キャリア実践Ⅰ (2)	キャリア実践Ⅱ (2)		
		キャリア実践Ⅲ (2)			
地域科目群	アウトキャンパス・スタディ	地域インターンシップ (4)	まちづくり実践 (2)	4単位以上	
		課題解決プロジェクト (2)	森林文化A (2)		
	地域	森林文化B (2)			
		地域と文学 (2)	飯能学 (2)		
		北欧文化論 (2)	多文化共生論 (2)		
		地域社会と観光 (2)	地域社会と環境 (2)		
		地域社会と経済 (2)	地域と財政 (2)		
		地域と金融 (2)	地域と企業 (2)		
		地域と歴史 (2)	地域と社会 (2)		
		地域と自然環境 (2)	地域とスポーツ (2)		
		地域福祉論 (2)			
教養基礎科目群	人間と文化	哲学A (2)	哲学B (2)	12単位以上	
		倫理学A (2)	倫理学B (2)		
		芸術学 (2)	文学A (2)		
		文学B (2)	文化人類学A (2)		
		文化人類学B (2)	こころの科学A (2)		
		こころの科学B (2)	ドイツ語と文化 (2)		
		フランス語と文化 (2)	中国語と文化 (2)		
		韓国語と文化 (2)	グローバル社会と日本語 (2)		
		健康・スポーツ実習Ⅰ (1)	健康・スポーツ実習Ⅱ (1)		
	社会と生活	法学A (2)	法学B (2)		
		政治学 (2)	経済学 (2)		
	社会学A (2)	社会学B (2)			
	歴史学A (2)	歴史学B (2)			
	観光学 (2)				
環境と人間	現代科学A (2)	現代科学B (2)			
	環境生物学A (2)	環境生物学B (2)			
	生命の科学A (2)	生命の科学B (2)			
	からだの科学A (2)	からだの科学B (2)			
	データサイエンス入門 (2)				
教養発展科目群		比較文明論 (2)	日本伝統文化論 (2)	6単位以上	
		現代思想 (2)	現代人と宗教 (2)		
		現代と文学 (2)	コミュニケーション論 (2)		
		インターネット文化論 (2)	映像文化論 (2)		
		アニメーション文化論 (2)	子ども文化論 (2)		
		現代人と心理 (2)	世界遺産論 (2)		
		現代社会と法 (2)	国際社会と政治 (2)		
		アジア社会論 (2)	労働と社会 (2)		
		社会福祉論 (2)	ホスピタリティ論 (2)		
		現代社会とメディア (2)	人工知能概論 (2)		
		生涯スポーツ演習A (2)	生涯スポーツ演習B (2)		
外国語科目群	必修外国語科目	英語総合Ⅰ (1)	英語総合Ⅱ (1)	4単位(いずれか1か国語選択) (日本語は留学生のみ)	
		英語表現Ⅰ (1)	英語表現Ⅱ (1)		
		ドイツ語総合Ⅰ (1)	ドイツ語総合Ⅱ (1)		
		ドイツ語表現Ⅰ (1)	ドイツ語表現Ⅱ (1)		
		フランス語総合Ⅰ (1)	フランス語総合Ⅱ (1)		
		フランス語表現Ⅰ (1)	フランス語表現Ⅱ (1)		
		中国語総合Ⅰ (1)	中国語総合Ⅱ (1)		
		中国語表現Ⅰ (1)	中国語表現Ⅱ (1)		
		韓国語総合Ⅰ (1)	韓国語総合Ⅱ (1)		
		韓国語表現Ⅰ (1)	韓国語表現Ⅱ (1)		
		日本語総合Ⅰ (1)	日本語総合Ⅱ (1)		
		日本語表現Ⅰ (1)	日本語表現Ⅱ (1)		
	自由選択外国語科目		英語演習A (2)	英語演習B (2)	(日本語は留学生のみ)
			ドイツ語演習A (2)	ドイツ語演習B (2)	
			フランス語演習A (2)	フランス語演習B (2)	
			中国語演習A (2)	中国語演習B (2)	
			韓国語演習A (2)	韓国語演習B (2)	
			日本語演習A (2)	日本語演習B (2)	
	海外語学演習 (4)				

大学学則

科目群		授業科目 (単位数)		卒業要件単位		
演習科目群		◎ゼミナールⅠ (2)	◎ゼミナールⅡ (2)	必修8単位		
		◎ゼミナールⅢ (2)	◎ゼミナールⅣ (2)			
専攻科目群	コース共通基礎科目	◎憲法概論 (2)	◎民法概論 (2)	必修8単位		
		◎刑法概論 (2)	◎政治学概論 (2)			
	政治学系・ 専門法学系	法学入門B (2)	行政法概論 (2)		50単位以上(内22単位以上は、所属するコースの専攻科目群から履修しなければならない。)	
		商法概論 (2)	国際公法 (2)			
		国際私法 (2)	情報法 (2)			
	コース共通発展科目	法史学A (2)	法史学B (2)			50単位以上(内22単位以上は、所属するコースの専攻科目群から履修しなければならない。)
		法哲学 (2)	法社会学 (2)			
		法と心理学A (2)	法と心理学B (2)			
		法律実務演習A (2)	法律実務演習B (2)			
		政治外交史 (2)	政治過程論 (2)			
国際関係論 (2)		日本政治論 (2)				
比較政治学 (2)						
一般社会科学系・人文科学系		日本史概論A (2)	日本史概論B (2)			
外国史概論A (2)		外国史概論B (2)				
地理学概論A (2)		地理学概論B (2)				
地誌学概論 (2)	人文地理学 (2)					
自然地理学 (2)	哲学概論 (2)					
倫理学概論 (2)	社会学概論 (2)					
古代・中世日本史 (2)	近現代日本史 (2)					
東洋史 (2)	西洋史 (2)					
国際経済学Ⅰ (2)	国際経済学Ⅱ (2)					
財政学Ⅰ (2)	財政学Ⅱ (2)					
教科内容指導論(歴史) (2)	教科内容指導論(地理) (2)					
教科内容指導論(公民) (2)	教材開発と指導(社会地歴公民) (2)					
就職対策系	教的处理 (2)	公務員試験対策演習A (2)	50単位以上(内22単位以上は、所属するコースの専攻科目群から履修しなければならない。)			
	公務員試験対策演習B (2)	公務員試験対策演習C (2)				
	宅建試験対策演習 (2)	行政書士試験対策演習 (2)				
	公務員論文対策演習 (2)					
コース専攻科目	企業と法コース科目	民法(物権) (2)	民法(総則)A (2)	50単位以上(内22単位以上は、所属するコースの専攻科目群から履修しなければならない。)		
		民法(総則)B (2)	民法(担保物権) (2)			
		民法(債権総論)A (2)	民法(債権総論)B (2)			
		民法(債権各論)A (2)	民法(債権各論)B (2)			
		民法(相続) (2)	会社法(設立・株式)A (2)			
		会社法(設立・株式)B (2)	会社法(機関)A (2)			
		会社法(機関)B (2)	商法総則・商行為法 (2)			
		知的財産法A (2)	知的財産法B (2)			
		消費者法 (2)	ITと法 (2)			
		電子マネーと法 (2)	ビジネス法務演習A (2)			
	ビジネス法務演習B (2)	金融商品取引法 (2)				
	民事執行法 (2)	倒産法 (2)				
	労働法A (2)	労働法B (2)				
	社会保障法 (2)	税法 (2)				
	経営学入門Ⅰ (2)	経営学入門Ⅱ (2)				
	会計学総論Ⅰ (2)	会計学総論Ⅱ (2)				
	簿記原理Ⅰ (2)	簿記原理Ⅱ (2)				
	応用簿記原理Ⅰ (2)	応用簿記原理Ⅱ (2)				
	原価計算論Ⅰ (2)	原価計算論Ⅱ (2)				
	現代金融論 (2)					
警察・消防コース科目	憲法(基本的人権)A (2)	憲法(基本的人権)B (2)	50単位以上(内22単位以上は、所属するコースの専攻科目群から履修しなければならない。)			
	憲法(統治機構)A (2)	憲法(統治機構)B (2)				
	民法(親族) (2)	刑法総論A (2)				
	刑法総論B (2)	刑法各論A (2)				
	刑法各論B (2)	刑事訴訟法A (2)				
	刑事訴訟法B (2)	刑事政策A (2)				
	刑事政策B (2)	行政法総論A (2)				
	行政法総論B (2)	消費者法 (2)				
	行政学 (2)	災害と法 (2)				
	警察と法 (2)	消防と法 (2)				
公務員への道A (2)	公務員への道B (2)					
公務員への道C (2)	公務員への道D (2)					
救急処置法 (2)	犯罪者処遇の心理学A(矯正) (2)					
捜査心理学 (2)						

大学学則

科目群		授業科目 (単位数)		卒業要件単位			
専攻科目群	コース専攻科目	法職・行政職公務員コース科目	憲法 (基本的人権) A	(2)	憲法 (基本的人権) B	(2)	50単位以上(内22単位以上は、所属するコースの専攻科目群から履修しなければならない。)
			憲法 (統治機構) A	(2)	憲法 (統治機構) B	(2)	
			民法 (総則) A	(2)	民法 (総則) B	(2)	
			民法 (物権)	(2)	民法 (担保物権)	(2)	
			民法 (債権総論) A	(2)	民法 (債権総論) B	(2)	
			民法 (債権各論) A	(2)	民法 (債権各論) B	(2)	
			民法 (親族)	(2)	民法 (相続)	(2)	
			刑法総論 A	(2)	刑法総論 B	(2)	
			刑法各論 A	(2)	刑法各論 B	(2)	
			会社法 (設立・株式) A	(2)	会社法 (設立・株式) B	(2)	
			会社法 (機関) A	(2)	会社法 (機関) B	(2)	
			民事訴訟法 A	(2)	民事訴訟法 B	(2)	
			民事執行法	(2)	倒産法	(2)	
			刑事訴訟法 A	(2)	刑事訴訟法 B	(2)	
			行政法総論 A	(2)	行政法総論 B	(2)	
			地方自治法	(2)	行政手続と行政争訟 A	(2)	
			行政手続と行政争訟 B	(2)	労働法 A	(2)	
			労働法 B	(2)	行政学	(2)	
			公共政策学	(2)	災害と法	(2)	
			地域行政と法	(2)	公務員への道 A	(2)	
公務員への道 B	(2)	公務員への道 C	(2)				
公務員への道 D	(2)	ミクロ経済学 I	(2)				
ミクロ経済学 II	(2)	マクロ経済学 I	(2)				
マクロ経済学 II	(2)						
合計 124 単位以上							

5. 経済経営学部経済経営学科（令和6年度以降入学学生適用）

◎印は必修科目○印は選択必修

科目群		授業科目（単位数）		卒業要件単位	
基礎教育科目群		◎基礎数学 (2)	◎プレゼミナールⅠ (2)	必修14単位	
		◎プレゼミナールⅡ (2)	◎プレゼミナールⅢ (2)		
		◎プレゼミナールⅣ (2)	◎コンピュータ・リテラシーⅠ (1)		
		◎コンピュータ・リテラシーⅡ (1)	◎データリテラシー演習 (2)		
キャリア教育科目群		◎キャリア基礎Ⅰ (2)	キャリア基礎Ⅱ (2)	必修4単位を含む6単位以上	
		キャリア発展 (2)	ライフプランニング (2)		
		◎キャリア実践Ⅰ (2)	キャリア実践Ⅱ (2)		
		キャリア実践Ⅲ (2)			
地域科目群	アウトキャンパス・スタディ	地域インターンシップ (4)	まちづくり実践 (2)	4単位以上	
		課題解決プロジェクト (2)	森林文化A (2)		
	地域	地域と文学 (2)	飯能学 (2)		
		北欧文化論 (2)	多文化共生論 (2)		
		地域社会と観光 (2)	地域社会と環境 (2)		
		地域社会と経済 (2)	地域と財政 (2)		
		地域と金融 (2)	地域と企業 (2)		
		地域と歴史 (2)	地域と社会 (2)		
		地域と自然環境 (2)	地域とスポーツ (2)		
		地域福祉論 (2)			
教養基礎科目群	人間と文化	哲学A (2)	哲学B (2)	12単位以上	
		倫理学A (2)	倫理学B (2)		
		芸術学 (2)	文学A (2)		
		文学B (2)	文化人類学A (2)		
		文化人類学B (2)	こころの科学A (2)		
		こころの科学B (2)	ドイツ語と文化 (2)		
	社会と生活	フランス語と文化 (2)	中国語と文化 (2)		
		韓国語と文化 (2)	グローバル社会と日本語 (2)		
		健康・スポーツ実習Ⅰ (1)	健康・スポーツ実習Ⅱ (1)		
		法学A (2)	法学B (2)		
	環境と人間	政治学 (2)	経済学 (2)		
		社会学A (2)	社会学B (2)		
歴史学A (2)		歴史学B (2)			
観光学 (2)					
	現代科学A (2)	現代科学B (2)			
	環境生物学A (2)	環境生物学B (2)			
	生命の科学A (2)	生命の科学B (2)			
	からだの科学A (2)	からだの科学B (2)			
	データサイエンス入門 (2)				
教養発展科目群		比較文明論 (2)	日本伝統文化論 (2)	6単位以上	
		現代思想 (2)	現代人と宗教 (2)		
		現代と文学 (2)	コミュニケーション論 (2)		
		インターネット文化論 (2)	映像文化論 (2)		
		アニメーション文化論 (2)	子ども文化論 (2)		
		現代人と心理 (2)	世界遺産論 (2)		
		現代社会と法 (2)	国際社会と政治 (2)		
		アジア社会論 (2)	労働と社会 (2)		
		社会福祉論 (2)	ホスピタリティ論 (2)		
		現代社会とメディア (2)	人工知能概論 (2)		
		生涯スポーツ演習A (2)	生涯スポーツ演習B (2)		
外国語科目群	必修外国語	第1外国語	英語表現Ⅰ (1)		英語表現Ⅱ (1)
			日本語総合Ⅰ (1)	日本語総合Ⅱ (1)	
		第2外国語	日本語表現Ⅰ (1)	日本語表現Ⅱ (1)	
			日本語発展Ⅰ (1)	日本語発展Ⅱ (1)	
	選択必修外国語	ドイツ語表現Ⅰ (1)	ドイツ語表現Ⅱ (1)	2単位 (いずれか1か国語を選択) (留学生は該当なし)	
		フランス語表現Ⅰ (1)	フランス語表現Ⅱ (1)		
		中国語表現Ⅰ (1)	中国語表現Ⅱ (1)		
		韓国語表現Ⅰ (1)	韓国語表現Ⅱ (1)		
	自由選択外国語	英語発展Ⅰ (1)	英語発展Ⅱ (1)	2単位 (いずれか1か国語を選択) (留学生は該当なし)	
		ドイツ語発展Ⅰ (1)	ドイツ語発展Ⅱ (1)		
		フランス語発展Ⅰ (1)	フランス語発展Ⅱ (1)		
		中国語発展Ⅰ (1)	中国語発展Ⅱ (1)		
韓国語発展Ⅰ (1)		韓国語発展Ⅱ (1)			
英語演習A (2)		英語演習B (2)	-		
ドイツ語演習A (2)		ドイツ語演習B (2)			
フランス語演習A (2)		フランス語演習B (2)			
中国語演習A (2)	中国語演習B (2)				
韓国語演習A (2)	韓国語演習B (2)				
日本語演習A (2)	日本語演習B (2)				
海外語学演習 (4)					

大学学則

科目群	授業科目 (単位数)		卒業要件単位	
演習科目群	◎ゼミナールⅠ (2) ◎ゼミナールⅢ (2)	◎ゼミナールⅡ (2) ◎ゼミナールⅣ (2)	必修8単位	
専攻基礎科目群	◎経済学の基礎 (ミクロ編) (2) ◎経営学入門Ⅰ (2) ◎国際経済の基礎 (2) ◎経済史Ⅰ (2) ◎会計学総論Ⅰ (2) ◎簿記原理Ⅰ (2) ◎情報処理概論Ⅰ (2) ◎統計学基礎 (2) ◎ホテル・ビジネス入門Ⅰ (2)	◎経済学の基礎 (マクロ編) (2) ◎経営学入門Ⅱ (2) ◎国際ビジネス入門 (2) ◎経済史Ⅱ (2) ◎会計学総論Ⅱ (2) ◎簿記原理Ⅱ (2) ◎情報処理概論Ⅱ (2) ◎統計学応用 (2) ◎ホテル・ビジネス入門Ⅱ (2)	必修8単位を含む 22単位以上	
専攻基幹科目群	経済 コア分野	○ミクロ経済学Ⅰ (2) ○マクロ経済学Ⅰ (2) ○経済政策論Ⅰ (2) ○財政学Ⅰ (2) ◎日本経済論 (2) ◎公共経済学Ⅰ (2) ◎国際経済学Ⅰ (2) ◎環境経済学Ⅰ (2) ◎現代金融論 (2)	○ミクロ経済学Ⅱ (2) ○マクロ経済学Ⅱ (2) ○経済政策論Ⅱ (2) ○財政学Ⅱ (2) ◎ゲームと情報の経済学 (2) ◎公共経済学Ⅱ (2) ◎国際経済学Ⅱ (2) ◎環境経済学Ⅱ (2)	22単位以上 【経済と社会コース】 「経済コア分野」の 選択必修科目 [○ 印] より4単位 「社会・法コア分 野」より6単位 残りの12単位以上を 「専攻基幹科目群」 内で自由選択する
	経営・会計 コア分野	○経営管理論 (2) ○マーケティング論Ⅰ (2) ○経営情報論 (2) ○財務会計概論 (2) ◎財務諸表演習 (2) ○原価計算論Ⅰ (2) ◎情報処理演習Ⅰ (2) ◎応用簿記原理Ⅰ (2)	○経営戦略論 (2) ◎マーケティング論Ⅱ (2) ○マネジメントサイエンス (2) ◎意思決定概論 (2) ◎コンピュータ会計論 (2) ◎原価計算論Ⅱ (2) ◎情報処理演習Ⅱ (2) ◎応用簿記原理Ⅱ (2)	【経営と会計コース】 「経営・会計コア分 野」の選択必修科目 [○印] より4単位 残りの18単位以上を 「専攻基幹科目群」 内で自由選択する
	観光・国際 ビジネス コア分野	○異文化間コミュニケーション論Ⅰ (2) ◎観光サービス論 (2) ◎ホテルビジネスケーススタディⅠ (2) ◎観光ビジネスケーススタディⅠ (2) ◎現代文化と観光 (2) ◎国際物流論 (2) ◎観光基礎論 (2)	◎異文化間コミュニケーション論Ⅱ (2) ◎地域観光概論 (2) ◎ホテルビジネスケーススタディⅡ (2) ◎観光ビジネスケーススタディⅡ (2) ◎スポーツ・マネジメント (2) ◎観光とアート (2) ◎観光交通論 (2)	【観光&国際ビジネ スコース】 「観光・国際ビジネ スコア分野」の選択 必修科目 [○印] よ り4単位 残りの18単位以上を 「専攻基幹科目群」 内で自由選択する
	社会・法 コア分野	法学入門A (2) ◎憲法概論 (2) ◎憲法 (基本的人権) A (2) ◎民法 (総則) A (2) ◎民法 (物権) (2) ◎民法 (債権総論) A (2) ◎民法 (債権各論) A (2) ◎会社法 (機関) A (2) ◎国際公法 (2) ◎税法 (2) ◎哲学概論 (2) ◎日本史概論A (2) ◎外国史概論A (2) ◎地理学概論A (2) ◎地誌学概論 (2) ◎環境問題の基礎Ⅰ (2) ◎国際関係論 (2)	法学入門B (2) ◎政治学概論 (2) ◎憲法 (統治機構) A (2) ◎民法 (総則) B (2) ◎民法 (担保物権) (2) ◎民法 (債権総論) B (2) ◎民法 (債権各論) B (2) ◎会社法 (機関) B (2) ◎国際私法 (2) ◎金融商品取引法 (2) ◎倫理学概論 (2) ◎日本史概論B (2) ◎外国史概論B (2) ◎地理学概論B (2) ◎社会学概論 (2) ◎環境問題の基礎Ⅱ (2) ◎西洋文化論 (2)	【観光&国際ビジネ スコース】 「観光・国際ビジネ スコア分野」の選択 必修科目 [○印] よ り4単位 残りの18単位以上を 「専攻基幹科目群」 内で自由選択する
スポーツ 資格分野	◎救急処置法 (2) ◎スポーツ社会学 (2) ◎トレーニングサイエンス (2)	◎スポーツ文化論 (2) ◎スポーツ心理学 (2)		

大学学則

科目群	授業科目 (単位数)		卒業要件単位
専攻 発展科目群	経済と社会 コース	計量経済学 (2)	市場と企業の理論 (2)
		地方財政論 (2)	国際金融論 (2)
		社会保障総論 (2)	欧米経済史 (2)
		企業金融論 (2)	社会福祉政策 (2)
		労働経済学総論 (2)	ポートフォリオ投資論 (2)
		数理経済学 (2)	
専攻 発展科目群	経営と会計 コース	現代経営組織論 (2)	現代人的資源管理論 (2)
		マーケティング・リサーチ I (2)	マーケティング・リサーチ II (2)
		経営データ分析 I (2)	経営データ分析 II (2)
		経営システム論 I (2)	経営システム論 II (2)
		コーポレートファイナンス (2)	財務分析 (2)
		ビジネス・ケーススタディ I (2)	ビジネス・ケーススタディ II (2)
専攻 発展科目群	観光& 国際ビジネ スコース	国際経営論 (2)	国際会計論 (2)
		アジア経済論 (2)	宗教とツーリズム (2)
		観光マーケティング (2)	旅行業法・約款 (2)
		旅行経営論 (2)	産業観光論 (2)
		テーマパーク実践 (2)	外国地誌 (2)
		国内旅行運賃 (2)	日本地誌 (2)
		観光ビジネス論 (2)	国際ビジネスケーススタディ (2)
合計 124 単位以上			

登録するコースより
12 単位以上

8. メディア情報学部メディア情報学科 (令和6年度以降入学者適用)

◎印は必修科目

科目群		授業科目 (単位数)		卒業要件単位	
基礎教育科目群		◎メディアと情報資源 (2)	◎プレゼミナールⅠ (2)	必修14単位	
		◎プレゼミナールⅡ (2)	◎プレゼミナールⅢ (2)		
		◎プレゼミナールⅣ (2)	◎コンピュータ・リテラシーⅠ (1)		
		◎コンピュータ・リテラシーⅡ (1)	◎データリテラシー演習 (2)		
キャリア教育科目群		◎キャリア基礎Ⅰ (2)	キャリア基礎Ⅱ (2)	必修4単位を含む6単位以上	
		キャリア発展 (2)	ライフプランニング (2)		
		◎キャリア実践Ⅰ (2)	キャリア実践Ⅱ (2)		
		キャリア実践Ⅲ (2)			
地域科目群	アウトキャンパス・スタディ	地域インターンシップ (4)	まちづくり実践 (2)	4単位以上	
		課題解決プロジェクト (2)	森林文化A (2)		
	地域	地域と文学 (2)	飯能学 (2)		
		北欧文化論 (2)	多文化共生論 (2)		
		地域社会と観光 (2)	地域社会と環境 (2)		
		地域社会と経済 (2)	地域と財政 (2)		
		地域と金融 (2)	地域と企業 (2)		
		地域と歴史 (2)	地域と社会 (2)		
		地域と自然環境 (2)	地域とスポーツ (2)		
		地域福祉論 (2)			
教養基礎科目群	人間と文化	哲学A (2)	哲学B (2)	12単位以上	
		倫理学A (2)	倫理学B (2)		
		芸術学 (2)	文学A (2)		
		文学B (2)	文化人類学A (2)		
		文化人類学B (2)	こころの科学A (2)		
		こころの科学B (2)	ドイツ語と文化 (2)		
		フランス語と文化 (2)	中国語と文化 (2)		
		韓国語と文化 (2)	グローバル社会と日本語 (2)		
		健康・スポーツ実習Ⅰ (1)	健康・スポーツ実習Ⅱ (1)		
	社会と生活	法学A (2)	法学B (2)		
		政治学 (2)	経済学 (2)		
	社会学A (2)	社会学B (2)			
	歴史学A (2)	歴史学B (2)			
	観光学 (2)				
環境と人間	現代科学A (2)	現代科学B (2)			
	環境生物学A (2)	環境生物学B (2)			
	生命の科学A (2)	生命の科学B (2)			
	からだの科学A (2)	からだの科学B (2)			
	データサイエンス入門 (2)				
教養発展科目群		比較文明論 (2)	日本伝統文化論 (2)	6単位以上	
		現代思想 (2)	現代人と宗教 (2)		
		現代と文学 (2)	コミュニケーション論 (2)		
		インターネット文化論 (2)	映像文化論 (2)		
		アニメーション文化論 (2)	子ども文化論 (2)		
		現代人と心理 (2)	世界遺産論 (2)		
		現代社会と法 (2)	国際社会と政治 (2)		
		アジア社会論 (2)	労働と社会 (2)		
		社会福祉論 (2)	ホスピタリティ論 (2)		
		現代社会とメディア (2)	人工知能概論 (2)		
		生涯スポーツ演習A (2)	生涯スポーツ演習B (2)		
外国語科目群	必修外国語	◎英語表現Ⅰ (1)	◎英語表現Ⅱ (1)		必修2単位 (留学生は6単位) (日本語は留学生のみ)
		◎日本語総合Ⅰ (1)	◎日本語総合Ⅱ (1)		
		◎日本語表現Ⅰ (1)	◎日本語表現Ⅱ (1)		
		◎日本語発展Ⅰ (1)	◎日本語発展Ⅱ (1)		
	第2外国語	◎ドイツ語表現Ⅰ (1)	◎ドイツ語表現Ⅱ (1)	必修2単位 (いずれか1言語を選択) (留学生は該当なし)	
		◎フランス語表現Ⅰ (1)	◎フランス語表現Ⅱ (1)		
		◎中国語表現Ⅰ (1)	◎中国語表現Ⅱ (1)		
		◎韓国語表現Ⅰ (1)	◎韓国語表現Ⅱ (1)		
	選択必修外国語	英語発展Ⅰ (1)	英語発展Ⅱ (1)	2単位 (いずれか1言語を選択) (留学生は該当なし)	
		ドイツ語発展Ⅰ (1)	ドイツ語発展Ⅱ (1)		
		フランス語発展Ⅰ (1)	フランス語発展Ⅱ (1)		
		中国語発展Ⅰ (1)	中国語発展Ⅱ (1)		
		韓国語発展Ⅰ (1)	韓国語発展Ⅱ (1)		
	自由選択外国語	英語演習A (2)	英語演習B (2)	-	
ドイツ語演習A (2)		ドイツ語演習B (2)			
フランス語演習A (2)		フランス語演習B (2)			
中国語演習A (2)		中国語演習B (2)			
韓国語演習A (2)		韓国語演習B (2)			
日本語演習A (2)		日本語演習B (2)			
海外語学演習 (4)					

大学学則

科目群		授業科目 (単位数)		卒業要件単位			
専門科目群	演習科目	◎ゼミナールⅠ	(2)	◎ゼミナールⅡ	(2)	必修8単位	
		◎ゼミナールⅢ	(2)	◎ゼミナールⅣ	(2)		
	専門基礎科目	◎マルチメディア論	(2)	メディアリテラシー	(2)	必修2単位を含む 12単位以上	
		マスメディア概論	(2)	情報と経済	(2)		
		テクニカルコミュニケーション基礎	(2)				
		デジタルフォト実習	(1)	映像制作実習	(1)		
		音響学概論	(2)	サウンドリスニング実習	(1)		
		デザイン基礎	(2)				
		情報処理概論	(2)	情報と分析	(2)		
		プログラミング入門演習	(2)				
	共通基幹科目	◎ソーシャルメディア論	(2)	◎メディア情報とキャリア	(2)	必修4単位を含む 26単位以上	
		情報検索論	(2)	メタデータ概論	(2)		
		情報マネジメント	(2)	情報フルエンシー	(2)		
		デジタル著作権論	(2)	色彩概論	(2)		
		ライティング演習	(2)				
		映像・音響コース基幹科目	映像ジャーナリズム論	(2)	映像編集技術論		(2)
			映像ストーリー論	(2)	コンテンツアナライズ論		(2)
			ウェブ映像論	(2)	CM制作論		(2)
音楽音響学			(2)	音響制作実習Ⅰ	(1)		
デザイン・アニメーションコース基幹科目		ウェブデザイン論	(2)	ウェブデザイン実習	(1)		
	ウェブ制作実習	(1)					
	グラフィックデザイン論	(2)	グラフィックデザイン実習	(1)			
	アニメーション制作論	(2)	アニメーション作画基礎	(1)			
情報・図書館コース基幹科目	ネットワークサービス論	(2)	情報セキュリティ論	(2)			
	システムプログラミング実習	(1)	プログラミング演習	(2)			
	生涯学習概論	(2)	歴史と史料	(2)			
	情報サービス論	(2)	児童サービス論	(2)			
共通発展科目	論文執筆法	(2)	AIとデータサイエンス	(2)	選択したコースの 発展科目8単位を含む 26単位以上		
	ネットコンテンツ論	(2)	電子文書と記録管理	(2)			
	プロジェクトマネジメント	(2)					
	映像・音響コース発展科目	映像演出論	(2)	映像作品研究		(2)	
制作技術論		(2)	CM制作研究	(2)			
デジタルコンテンツ制作演習		(2)	デジタル撮影応用実習	(1)			
プリプロダクション演習		(2)	ポストプロダクション演習	(2)			
サウンドデザイン論		(2)	サウンドデザイン演習A	(2)			
デザイン・アニメーションコース発展科目	メディアデザイン論	(2)	オンラインメディア管理論	(2)			
	ウェブ制作論	(2)	ウェブ制作演習	(2)			
	コンピュータグラフィックス実習	(1)	グラフィックデザイン演習	(2)			
	プレ・ビジュアルライゼーション研究	(2)	ポスト・ビジュアルライゼーション研究	(2)			
	創作過程論	(2)	アニメーション作画応用	(2)			
情報・図書館コース発展科目	アニメーション作品・作家研究Ⅰ	(2)	アニメーション作品・作家研究Ⅱ	(2)			
	アニメーション制作演習	(2)					
	情報システム開発論	(2)	データベース設計論	(2)			
	ネットワーク構築論	(2)	ネットワークプログラミング演習	(2)			
	図書館制度・経営論	(2)	歴史資料論	(2)			
	情報サービス基礎演習	(2)	情報サービス発展演習	(2)			
情報資源組織基礎演習	(2)	情報資源組織発展演習	(2)				
図書館総合演習	(2)						
公文書管理論	(2)	アーカイブズ学	(2)				
記録情報演習	(2)						
合計124単位以上							

12. スポーツ科学部スポーツ科学科（令和6年度以降入学者適用）

◎印は必修科目

科目群		授業科目（単位数）		卒業要件単位		
基礎教育科目群		◎教養基礎講座 (2)	◎プレゼミナールⅠ (2)	必修14単位		
		◎プレゼミナールⅡ (2)	◎プレゼミナールⅢ (2)			
		◎プレゼミナールⅣ (2)	◎コンピュータ・リテラシーⅠ (1)			
		◎コンピュータ・リテラシーⅡ (1)	◎データリテラシー演習 (2)			
		◎キャリア基礎Ⅰ (2)	キャリア基礎Ⅱ (2)			
キャリア教育科目群		キャリア発展 (2)	ライフプランニング (2)	必修4単位を含む6単位以上		
		◎キャリア実践Ⅰ (2)	キャリア実践Ⅱ (2)			
		キャリア実践Ⅲ (2)				
地域科目群	アウトキャンパス・スタディ	地域インターンシップ (4)	まちづくり実践 (2)	4単位以上		
		課題解決プロジェクト (2)	森林文化A (2)			
		森林文化B (2)				
	地域	地域と文学 (2)	飯能学 (2)			
		北欧文化論 (2)	多文化共生論 (2)			
		地域社会と観光 (2)	地域社会と環境 (2)			
		地域社会と経済 (2)	地域と財政 (2)			
		地域と金融 (2)	地域と企業 (2)			
		地域と歴史 (2)	地域と社会 (2)			
		地域と自然環境 (2)	地域とスポーツ (2)			
		地域福祉論 (2)				
教養基礎科目群	人間と文化	◎健康・スポーツ実習Ⅰ (1)	◎健康・スポーツ実習Ⅱ (1)	必修2単位を含む12単位以上		
		哲学A (2)	哲学B (2)			
		倫理学A (2)	倫理学B (2)			
		芸術学 (2)	文学A (2)			
		文学B (2)	文化人類学A (2)			
		文化人類学B (2)	こころの科学A (2)			
	こころの科学B (2)	ドイツ語と文化 (2)				
		フランス語と文化 (2)	中国語と文化 (2)			
		韓国語と文化 (2)	グローバル社会と日本語 (2)			
	社会と生活	法学A (2)	法学B (2)			
		政治学 (2)	経済学 (2)			
		社会学A (2)	社会学B (2)			
歴史学A (2)		歴史学B (2)				
	観光学 (2)					
環境と人間	現代科学A (2)	現代科学B (2)				
	環境生物学A (2)	環境生物学B (2)				
	生命の科学A (2)	生命の科学B (2)				
	からだの科学A (2)	からだの科学B (2)				
	データサイエンス入門 (2)					
教養発展科目群		比較文明論 (2)	日本伝統文化論 (2)	6単位以上		
		現代思想 (2)	現代人と宗教 (2)			
		現代と文学 (2)	コミュニケーション論 (2)			
		インターネット文化論 (2)	映像文化論 (2)			
		アニメーション文化論 (2)	子ども文化論 (2)			
		現代人と心理 (2)	世界遺産論 (2)			
		現代社会と法 (2)	国際社会と政治 (2)			
		アジア社会論 (2)	労働と社会 (2)			
		社会福祉論 (2)	ホスピタリティ論 (2)			
		現代社会とメディア (2)	人工知能概論 (2)			
		生涯スポーツ演習A (2)	生涯スポーツ演習B (2)			
外国語科目群	必修外国語	第1外国語	英語表現Ⅰ (1)	英語表現Ⅱ (1)	2単位(留学生は6単位) (日本語は留学生のみ)	
			日本語総合Ⅰ (1)	日本語総合Ⅱ (1)		
			日本語表現Ⅰ (1)	日本語表現Ⅱ (1)		
		日本語発展Ⅰ (1)	日本語発展Ⅱ (1)			
		第2外国語	ドイツ語表現Ⅰ (1)	ドイツ語表現Ⅱ (1)		2単位 (いずれか1か国語を選択) (留学生は該当なし)
			フランス語表現Ⅰ (1)	フランス語表現Ⅱ (1)		
	中国語表現Ⅰ (1)		中国語表現Ⅱ (1)			
	選択必修外国語	韓国語表現Ⅰ (1)	韓国語表現Ⅱ (1)	2単位 (いずれか1か国語を選択) (留学生は該当なし)		
		英語発展Ⅰ (1)	英語発展Ⅱ (1)			
		ドイツ語発展Ⅰ (1)	ドイツ語発展Ⅱ (1)			
		フランス語発展Ⅰ (1)	フランス語発展Ⅱ (1)			
		中国語発展Ⅰ (1)	中国語発展Ⅱ (1)			
		韓国語発展Ⅰ (1)	韓国語発展Ⅱ (1)			
自由選択外国語		英語演習A (2)	英語演習B (2)	-		
		ドイツ語演習A (2)	ドイツ語演習B (2)			
		フランス語演習A (2)	フランス語演習B (2)			
		中国語演習A (2)	中国語演習B (2)			
		韓国語演習A (2)	韓国語演習B (2)			
		日本語演習A (2)	日本語演習B (2)			
		海外語学演習 (4)				

科目群		授業科目 (単位数)		卒業要件単位			
専攻科目群	専攻導入科目	◎チームビルディング	(1)	◎救急処置法	(2)	必修9単位を含む 13単位以上	
		◎スポーツ科学入門A	(2)	◎スポーツ科学入門B	(2)		
		◎スポーツとキャリア	(2)	トレーニングサイエンス	(2)		
		ヘルスサイエンス	(2)	スポーツ文化論	(2)		
	専攻基幹科目	講義科目	運動生理学	(2)	スポーツ哲学	(2)	8単位以上
			スポーツ社会学	(2)	スポーツ・バイオメカニクス	(2)	
			スポーツ心理学	(2)	スポーツ史	(2)	
		実技科目	◎専門実技(体づくり運動)	(1)	◎専門実技(ジョギング・ウォーキング)	(1)	必修1単位を含む 2単位以上
			◎専門実技(陸上競技)	(1)	◎専門実技(器械運動)	(1)	
			◎専門実技(体カトレーニング)	(1)	◎専門実技(水泳)	(1)	
			◎専門実技(柔道)	(1)	◎専門実技(ダンス)	(1)	
			◎専門実技(フィットネスA)	(1)	◎専門実技(フィットネスB)	(1)	1単位以上
			◎専門実技(サッカー)	(1)	◎専門実技(バレーボール)	(1)	
			◎専門実技(バスケットボール)	(1)	◎専門実技(テニス)	(1)	
			◎専門実技(ホッケー)	(1)	◎専門実技(ラグビー)	(1)	
専攻発展科目	教育スポーツと	◎スポーツ生理学	(2)	◎スポーツ教育学	(2)	選択したコースの 16単位 (内必修6単位)を 含む35単位以上	
		◎生涯スポーツ論	(2)	◎発育・発達とスポーツ	(2)		
		◎運動学	(2)	◎衛生学・公衆衛生学	(2)		
		◎メンタルトレーニング演習	(2)	◎生涯学習論	(2)		
		◎ジュニアスポーツ指導演習	(2)	◎加齢とスポーツ	(2)		
◎学校保健	(2)	◎アダプテッドスポーツ論	(2)				
◎スポーツ心理学演習	(2)	◎プロジェクト・アドベンチャー研修	(2)				
◎教育と文化	(2)	◎教育と法	(2)				
◎スポーツと法	(2)						
専攻発展科目	健康スポーツと	◎スポーツ測定法Ⅰ	(2)	◎健康とスポーツの医学A	(2)		
		◎労働衛生Ⅰ	(2)	◎スポーツ測定法Ⅱ	(2)		
		◎スポーツコーチング論	(2)	◎スポーツ指導者論	(2)		
		◎解剖生理学	(2)	◎スポーツ栄養学	(2)		
		◎労働基準法	(2)	◎労働衛生Ⅱ	(2)		
		◎労働安全衛生法Ⅰ	(2)	◎労働安全衛生法Ⅱ	(2)		
		◎スポーツインストラクター指導論	(2)	◎健康・体力づくり指導法	(2)		
		◎健康とスポーツの医学B	(2)	◎アスレティックトレーナー論	(2)		
◎運動処方論	(2)	◎コンディショニング論	(2)				
専攻発展科目	地域・スポーツと	◎スポーツ人類学	(2)	◎スポーツ・マネジメント	(2)		
		◎スポーツ・ツーリズム論	(2)	◎異文化とスポーツ	(2)		
		◎海外スポーツ文化研修	(2)	◎ウェルビーイング論	(2)		
		◎飯能とスポーツ	(2)	◎スポーツ政策論	(2)		
		◎フィールドトリップA	(2)	◎フィールドトリップB	(2)		
		◎スポーツと文学	(2)	◎スポーツと欧米文化	(2)		
		◎スポーツと日本文化	(2)	◎スポーツと政治	(2)		
		◎国際交流とスポーツ	(2)	◎サステイナブルツーリズム論	(2)		
◎スポーツ・ツーリズム研修	(2)	◎地域自然活動研修	(2)				
専攻実践科目	◎スポーツと教育実習	(1)	◎スポーツと健康実習	(1)			
	◎スポーツと地域・社会実習	(1)					
演習科目群		◎ゼミナールⅠ	(2)	◎ゼミナールⅡ	(2)	必修8単位	
		◎ゼミナールⅢ	(2)	◎ゼミナールⅣ	(2)		
		合計 124単位以上					

1 4. 心理学部心理学科 (令和6年度以降入学者適用)

◎印は必修科目

科目群		授業科目 (単位数)		卒業要件単位	
基礎教育科目群		◎人間研究の視点 (心理学研究法) (2)	◎プレゼミナールⅠ (2)	必修14単位	
		◎プレゼミナールⅡ (2)	◎プレゼミナールⅢ (2)		
		◎プレゼミナールⅣ (2)	◎コンピュータ・リテラシーⅠ (1)		
		◎コンピュータ・リテラシーⅡ (1)	◎データリテラシー演習 (2)		
キャリア教育科目群		◎キャリア基礎Ⅰ (2)	キャリア基礎Ⅱ (2)	必修4単位を含む6単位以上	
		キャリア発展 (2)	ライフプランニング (2)		
		◎キャリア実践Ⅰ (2)	キャリア実践Ⅱ (2)		
		キャリア実践Ⅲ (2)			
地域科目群	アウトキャンパス・スタディ	地域インターンシップ (4)	まちづくり実践 (2)	4単位以上	
		課題解決プロジェクト (2)	森林文化A (2)		
	地域	地域と文学 (2)	飯能学 (2)		
		北欧文化論 (2)	多文化共生論 (2)		
		地域社会と観光 (2)	地域社会と環境 (2)		
		地域社会と経済 (2)	地域と財政 (2)		
		地域と金融 (2)	地域と企業 (2)		
		地域と歴史 (2)	地域と社会 (2)		
		地域と自然環境 (2)	地域とスポーツ (2)		
		地域福祉論 (2)			
教養基礎科目群	人間と文化	哲学A (2)	哲学B (2)	12単位以上	
		倫理学A (2)	倫理学B (2)		
		芸術学 (2)	文学A (2)		
		文学B (2)	文化人類学A (2)		
		文化人類学B (2)	こころの科学A (2)		
		こころの科学B (2)	ドイツ語と文化 (2)		
		フランス語と文化 (2)	中国語と文化 (2)		
		韓国語と文化 (2)	グローバル社会と日本語 (2)		
	健康・スポーツ実習Ⅰ (1)	健康・スポーツ実習Ⅱ (1)			
	社会と生活	法学A (2)	法学B (2)		6単位以上
		政治学 (2)	経済学 (2)		
		社会学A (2)	社会学B (2)		
歴史学A (2)		歴史学B (2)			
環境と人間	観光学 (2)				
	現代科学A (2)	現代科学B (2)			
	環境生物学A (2)	環境生物学B (2)			
	生命の科学A (2)	生命の科学B (2)			
	からだの科学A (2)	からだの科学B (2)			
教養発展科目群		比較文明論 (2)	日本伝統文化論 (2)	6単位以上	
		現代思想 (2)	現代人と宗教 (2)		
		現代と文学 (2)	コミュニケーション論 (2)		
		インターネット文化論 (2)	映像文化論 (2)		
		アニメーション文化論 (2)	子ども文化論 (2)		
		現代人と心理 (2)	世界遺産論 (2)		
		現代社会と法 (2)	国際社会と政治 (2)		
		アジア社会論 (2)	労働と社会 (2)		
		社会福祉論 (2)	ホスピタリティ論 (2)		
		現代社会とメディア (2)	人工知能概論 (2)		
		生涯スポーツ演習A (2)	生涯スポーツ演習B (2)		
	外国語科目群	必修外国語科目	◎英語総合Ⅰ (1)		◎英語総合Ⅱ (1)
◎英語表現Ⅰ (1)			◎英語表現Ⅱ (1)		
◎英語発展Ⅰ (1)			◎英語発展Ⅱ (1)		
◎日本語総合Ⅰ (1)			◎日本語総合Ⅱ (1)		
◎日本語表現Ⅰ (1)			◎日本語表現Ⅱ (1)		
◎日本語発展Ⅰ (1)			◎日本語発展Ⅱ (1)		
自由選択外国語科目		英語演習A (2)	英語演習B (2)	-	
		ドイツ語演習A (2)	ドイツ語演習B (2)		
		フランス語演習A (2)	フランス語演習B (2)		
		中国語演習A (2)	中国語演習B (2)		
		韓国語演習A (2)	韓国語演習B (2)		
		日本語演習A (2)	日本語演習B (2)		
		海外語学演習 (4)			

大学学則

科目群		授業科目 (単位数)		卒業要件単位		
専攻科目群	専攻基礎科目	◎心理学概論A (基礎)	(2)	◎心理学概論B (応用)	(2)	必修4単位を 含む22単位以上
		臨床心理学概論	(2)	法と犯罪の心理学	(2)	
	発達心理学	(2)	知覚・認知心理学	(2)		
	感情・人格心理学	(2)	社会・集団・家族心理学	(2)		
	学習・言語心理学	(2)	対人認知の心理学	(2)		
	公認心理師の職責	(2)	神経・生理心理学	(2)		
	人体の構造と機能及び疾病	(2)	現代社会論	(2)		
	社会人類学	(2)	比較宗教学	(2)		
	死生学	(2)	西洋文化史	(2)		
	認知言語学	(2)	社会福祉の制度と実践	(2)		
専攻基礎科目	◎データ分析Ⅰ (心理学統計法)	(2)	データ分析Ⅱ (発展統計)	(2)	必修2単位を 含む6単位以上	
	心理学実験	(2)	質問紙調査法演習	(2)		
専攻発展科目	心理学 発展 科目	◎心理学実験	(2)	文獻研究法	(2)	12単位以上
		観察法・調査面接法	(2)	心理学文献講読	(2)	
	心理学	認知心理学A (思考と言語)	(2)	認知心理学B (社会と認知)	(2)	
	発達	社会心理学A (ジェンダー心理学)	(2)	社会心理学B (文化と社会)	(2)	
	展	パーソナリティ心理学A (理論の発展)	(2)	パーソナリティ心理学B (自己と他者)	(2)	
	科	精神疾患とその治療	(2)	デザイン心理学	(2)	
	目	産業・組織心理学	(2)	キャリア心理学	(2)	
		関係行政論	(2)	心理演習	(2)	
		心理実習Ⅰ	(2)	心理実習Ⅱ	(2)	
		心理実習Ⅱ	(2)			
専攻発展科目	臨床 の 心 理 学	心理学的支援法	(2)	カウンセリング論	(2)	選択したコースの 8単位を含む 18単位以上
	健康・医療心理学	(2)	障害者・障害児心理学	(2)		
専攻発展科目	家族療法	(2)	交流分析	(2)		
	遊戯療法	(2)	面接演習	(2)		
専攻発展科目	心理的アセスメント	(2)		(2)		
	法と心理学A	(2)	法と心理学B	(2)		
専攻発展科目	攻撃行動の心理学	(2)	非行の心理学	(2)		
	犯罪者処遇の心理学A (矯正)	(2)	犯罪者処遇の心理学B (更生保護)	(2)		
専攻発展科目	捜査心理学	(2)	犯罪被害者の心理	(2)		
	犯罪社会学	(2)	司法・犯罪心理学	(2)		
専攻発展科目	刑事政策A	(2)	刑事政策B	(2)		
	乳幼児期の発達と臨床	(2)	児童・青年期の発達と臨床	(2)		
専攻発展科目	成人・老年期の発達と臨床	(2)	教育・学校心理学	(2)		
	子育ての心理学	(2)	福祉心理学	(2)		
専攻発展科目	キッズビジネス	(2)	子どもと音楽	(2)		
	子どもの心の理解と実際	(2)	ウェルビーイング論	(2)		
専攻発展科目	発達・発達とスポーツ	(2)				
	◎ゼミナールⅠ	(2)	◎ゼミナールⅡ	(2)		
演習 科目	◎ゼミナールⅢ	(2)	◎ゼミナールⅣ	(2)	必修8単位	
合計124単位以上						

駿河台大学情報処理教育センター規程

平成21年 4月 1日制定
平成27年 3月26日最近改定

(総則)

第1条 駿河台大学学則第9条第2項の規定に基づき、本学に共通教育センターとして情報処理教育センター（以下、「センター」という。）を置く。

(目的)

第2条 センターは、本学における情報処理基礎教育を一元的な組織の下で、統一的かつ円滑に実施し、学生の情報処理能力を向上させることを目的とする。

(事業)

第3条 センターは、前条の目的を達成するために、次の各号に掲げる業務を行う。

- (1) 情報処理基礎教育の授業計画の策定・実施に関すること。
- (2) 情報処理基礎教育の改善向上のための計画案の策定に関すること。
- (3) 学生の情報処理能力向上のための指導・支援に関すること。
- (4) センター所属専任教員の任用に関すること。
- (5) 情報処理教育担当非常勤の任用に関すること。
- (6) 情報処理教育担当非常勤との連絡及び調整に関すること。
- (7) 情報処理教育関係の機器に関すること。
- (8) その他、センターの目的を達成するために必要な業務に関すること。

(組織)

第4条 センターに、次の教員を置く。

- (1) センター長
- (2) センター兼任教員
- (3) センター所属専任教員

(センター長)

第5条 センターに、センター長1名を置く。

- 2 センター長は、センター兼任教員の中から、学長の推薦に基づき理事長が任命する。
- 3 センター長は、学長が委任したセンターの業務を統括する。
- 4 センター長はセンターを代表する。
- 5 センター長は、学長がセンターに関して決定を行う場合には、求めに応じて意見を述べる。
- 6 センター長は、センターの業務全体を統括し、センターを代表する。
- 7 センター長の任期は2年とし、再任を妨げない。ただし、欠員が生じたときは、前任者の残任期間とする。

(センター兼任教員)

第6条 センター兼任教員は、各学部にも所属する専任教員のうち、学長が併任を委嘱した教員とする。

- 2 センター兼任教員は、学部にも所属し、センターの業務を兼務する。

(センター所属専任教員)

第7条 センター所属専任教員は、センターにも所属し、授業を担当する他、センターに関連する業務を行う。

- 2 センター所属専任教員の任用等に関する事項は、別に定める。

(センター運営会議)

第8条 センターに、センター運営会議を置く。

- 2 センター運営会議に関する事項は、別に定める。

(施設)

第9条 センターの施設に関する事項は、別に定める。

(事務)

第10条 センターに関する事務は、メディアセンター事務部情報システム課が担当する。

附則

この規程は、平成21年4月1日より施行する。

平成27年1月8日一部改正。

平成27年4月1日一部改正。

駿河台大学 情報処理教育センター運営会議細則

平成21年 4月 1日制定
平成27年 1月 8日最近改定

(目的)

第1条 この細則は、駿河台大学情報処理教育センター規程第8条に定めるところにより、情報処理教育センター運営会議（以下、「運営会議」という。）に関する事項について定めることを目的とする。

(審議事項)

第2条 運営会議は、次の項目を審議する。

- (1) センターの業務に関する事項。
- (2) センターの管理運営に関する事項。
- (3) センターの予算及び決算に関する事項。
- (4) その他、必要と認められる事項。

(組織)

第3条 運営会議は、次に掲げる者をもって構成する。

- (1) センター長
- (2) センター兼任教員
- (3) センター所属専任教員
- (4) メディアセンター事務部長
- (5) その他学長が指名した者

(委員長)

第4条 運営会議の長は、前条第1号のセンター長をもって充てる。

(運営会議の開催)

第5条 運営会議は、センター長がこれを招集し、その議長になる。

2 運営会議が必要と認めるときは、構成員以外の者の出席を求め、意見を聞くことができる。

(事務)

第6条 運営会議に関する事務は、メディアセンター事務部情報システム課が担当する。

(その他)

第7条 この細則に定めるものの他、運営会議の運営に関し必要な事項は、運営会議が定める。

附則

この細則は、平成21年4月1日より施行する。

平成27年1月8日一部改正。

「数理・データサイエンス・AI 教育プログラム」について（申し合わせ）

1. この申し合わせは、本学の数理・データサイエンス・AI 教育を推進するため、数理・データサイエンス・AI 教育プログラムの改善・進化及び自己点検・評価等について、必要な事項を定めることを目的とする。
2. 本プログラムについての必要な事項は、情報処理教育センター運営会議細則第 2 条第 4 号に基づき、情報処理教育センター運営会議にて審議するものとする。
3. 本プログラムを本センター運営会議にて審議する際は、情報処理教育センター運営会議細則第 5 条第 2 項に基づき、副学長（教務担当）及び学務部長に出席を求め意見を聴くことができる。
4. 本プログラムの自己点検・評価は本センター運営会議にて実施し、内部質保証推進委員会の評価を受け、本プログラムの改善・進化に向けた取組を行うものとする。

駿河台大学情報処理教育センター規程

平成21年 4月 1日制定
平成27年 3月26日最近改定

(総則)

第1条 駿河台大学学則第9条第2項の規定に基づき、本学に共通教育センターとして情報処理教育センター（以下、「センター」という。）を置く。

(目的)

第2条 センターは、本学における情報処理基礎教育を一元的な組織の下で、統一的かつ円滑に実施し、学生の情報処理能力を向上させることを目的とする。

(事業)

第3条 センターは、前条の目的を達成するために、次の各号に掲げる業務を行う。

- (1) 情報処理基礎教育の授業計画の策定・実施に関すること。
- (2) 情報処理基礎教育の改善向上のための計画案の策定に関すること。
- (3) 学生の情報処理能力向上のための指導・支援に関すること。
- (4) センター所属専任教員の任用に関すること。
- (5) 情報処理教育担当非常勤の任用に関すること。
- (6) 情報処理教育担当非常勤との連絡及び調整に関すること。
- (7) 情報処理教育関係の機器に関すること。
- (8) その他、センターの目的を達成するために必要な業務に関すること。

(組織)

第4条 センターに、次の教員を置く。

- (1) センター長
- (2) センター兼任教員
- (3) センター所属専任教員

(センター長)

第5条 センターに、センター長1名を置く。

- 2 センター長は、センター兼任教員の中から、学長の推薦に基づき理事長が任命する。
- 3 センター長は、学長が委任したセンターの業務を統括する。
- 4 センター長はセンターを代表する。
- 5 センター長は、学長がセンターに関して決定を行う場合には、求めに応じて意見を述べる。
- 6 センター長は、センターの業務全体を統括し、センターを代表する。
- 7 センター長の任期は2年とし、再任を妨げない。ただし、欠員が生じたときは、前任者の残任期間とする。

(センター兼任教員)

第6条 センター兼任教員は、各学部にも所属する専任教員のうち、学長が併任を委嘱した教員とする。

- 2 センター兼任教員は、学部にも所属し、センターの業務を兼務する。

(センター所属専任教員)

第7条 センター所属専任教員は、センターにも所属し、授業を担当する他、センターに関連する業務を行う。

- 2 センター所属専任教員の任用等に関する事項は、別に定める。

(センター運営会議)

第8条 センターに、センター運営会議を置く。

- 2 センター運営会議に関する事項は、別に定める。

(施設)

第9条 センターの施設に関する事項は、別に定める。

(事務)

第10条 センターに関する事務は、メディアセンター事務局情報システム課が担当する。

附則

この規程は、平成21年4月1日より施行する。

平成27年1月8日一部改正。

平成27年4月1日一部改正。

駿河台大学 情報処理教育センター運営会議細則

平成21年 4月 1日制定
平成27年 1月 8日最近改定

(目的)

第1条 この細則は、駿河台大学情報処理教育センター規程第8条に定めるところにより、情報処理教育センター運営会議（以下、「運営会議」という。）に関する事項について定めることを目的とする。

(審議事項)

第2条 運営会議は、次の項目を審議する。

- (1) センターの業務に関する事項。
- (2) センターの管理運営に関する事項。
- (3) センターの予算及び決算に関する事項。
- (4) その他、必要と認められる事項。

(組織)

第3条 運営会議は、次に掲げる者をもって構成する。

- (1) センター長
- (2) センター兼任教員
- (3) センター所属専任教員
- (4) メディアセンター事務部長
- (5) その他学長が指名した者

(委員長)

第4条 運営会議の長は、前条第1号のセンター長をもって充てる。

(運営会議の開催)

第5条 運営会議は、センター長がこれを招集し、その議長になる。

2 運営会議が必要と認めるときは、構成員以外の者の出席を求め、意見を聞くことができる。

(事務)

第6条 運営会議に関する事務は、メディアセンター事務部情報システム課が担当する。

(その他)

第7条 この細則に定めるものの他、運営会議の運営に関し必要な事項は、運営会議が定める。

附則

この細則は、平成21年4月1日より施行する。

平成27年1月8日一部改正。

「数理・データサイエンス・AI 教育プログラム」について（申し合わせ）

1. この申し合わせは、本学の数理・データサイエンス・AI 教育を推進するため、数理・データサイエンス・AI 教育プログラムの改善・進化及び自己点検・評価等について、必要な事項を定めることを目的とする。
2. 本プログラムについての必要な事項は、情報処理教育センター運営会議細則第 2 条第 4 号に基づき、情報処理教育センター運営会議にて審議するものとする。
3. 本プログラムを本センター運営会議にて審議する際は、情報処理教育センター運営会議細則第 5 条第 2 項に基づき、副学長（教務担当）及び学務部長に出席を求め意見を聴くことができる。
4. 本プログラムの自己点検・評価は本センター運営会議にて実施し、内部質保証推進委員会の評価を受け、本プログラムの改善・進化に向けた取組を行うものとする。

駿河台大学内部質保証推進委員会規程

令和2年4月1日 制定

(目的)

第1条 この規程は、駿河台大学内部質保証方針に基づき、駿河台大学（以下、「本学」という。）における内部質保証を推進するために必要な組織等について、定めることを目的とする。

(組織)

第2条 本学における教育活動・研究活動等の諸活動を恒常的且つ継続的に改善させるため、内部質保証に対する全学的責任を負う組織として、駿河台大学内部質保証推進委員会（以下、「委員会」という。）を置く。

2 委員会の下に駿河台大学自己点検評価分科会（以下、「分科会」という。）を置き、同分科会に各大学基準に対応することを目的とした部会を設ける。

(委員会の構成)

第3条 委員会は、次に掲げる者をもって構成し、学長が委員長となる。

- (1) 学長
- (2) 副学長
- (3) 学長補佐
- (4) 学部長
- (5) 研究科長・副研究科長
- (6) 共通教育センター等長
- (7) 法人局長・事務局長
- (8) 学務企画部長
- (9) その他学長が指名した者

2 委員長が必要と認めるときは、構成員以外の者に出席を求め、意見を聴くことができる。

(委員会の権限)

第4条 委員会は、本学における内部質保証の推進・向上を図るため、関連部局に対して指示する権限を有する。

(委員会の任務)

第5条 委員会は、内部質保証の推進、内部質保証に係る自己点検評価、認証評価機関による大学評価（以下、「認証評価」という。）及び外部の第三者による評価等に関して必要な事項をつかさどる。

2 委員会は、第1項に係る具体的な実施について、分科会に指示及び委託することができる。

(分科会の構成)

第6条 分科会は、次に掲げる者をもって構成し、学長が主査となる。

- (1) 学長
- (2) 副学長
- (3) 学長補佐
- (4) 法人局長・事務局長
- (5) 学務企画部長
- (6) その他学長が指名した者

2 主査が必要と認めるときは、構成員以外の者に出席を求め、意見を聴くことができる。

(分科会の任務)

第7条 分科会は、委員会からの指示及び委託に基づき、次の事項を担当する。

- (1) 自己点検評価に関する事項への対応
- (2) 認証評価に関する事項への対応
- (3) 外部の第三者による評価に関する事項への対応
- (4) その他、上記(1)～(3)以外の事項への対応

2 分科会は、第1項における各対応について、委員会に報告を行うものとする。

3 分科会における各部会の組織は、次のとおりとする。

- (1) 基準1部会（理念・目的）
- (2) 基準2部会（内部質保証）

- (3) 基準 3 部会 (教育研究組織)
- (4) 基準 4 部会 (教育課程・学習成果)
- (5) 基準 5 部会 (学生の受け入れ)
- (6) 基準 6 部会 (教員・教員組織)
- (7) 基準 7 部会 (学生支援)
- (8) 基準 8 部会 (教育研究等環境)
- (9) 基準 9 部会 (社会連携・社会貢献)
- (10) 基準 10 部会 (大学運営・財務)

(事務)

第 8 条 委員会及び分科会に関する事務は、学務企画部学務企画課が担当する。

(その他)

第 9 条 委員会及び分科会の運営に関する必要な事項は、それぞれ委員会及び分科会がこれを定める。

附 則

この規程は、令和 2 年 4 月 1 日から施行する。

駿河台大学大学評価委員会規程 (平成 16 年 6 月 10 日制定) は、令和 2 年 3 月 31 日をもって廃止とする。

大学等名	駿河台大学	申請レベル	リテラシーレベル
教育プログラム名	数理・データサイエンス・AI教育プログラム（リテラシー）	申請年度	令和7年度

取組概要

■ プログラムの目的

Society 5.0時代を見据え、建学の精神「愛情教育」のもと、学生全員が数理・データサイエンス・AIの基礎的素養を修得できる教育を提供する。データ・AIを活用する「楽しさ」や「学ぶ意義」を伝え、好奇心と自信を育み、日常生活や将来の仕事の場などでこれらを前向きに利活用できる人材を育成する。

■ 開講科目

2年次必修科目「データリテラシー演習」（2単位）

■ 修了要件

「データリテラシー演習」を履修し2単位を修得する

■ 学修サポート

- ・ 情報処理教育センターでの個別学習指導
- ・ 学生アシスタントによるPC操作およびグループワーク支援
- ・ Moodleによる教材公開・フィードバック
- ・ Microsoft 365の無償提供
- ・ 共用パソコンおよび高速Wi-Fi環境の整備



■ 身に付けられる能力

- 1 データ・AIによる社会変化を自分事として捉え、興味関心を持って主体的に知識を習得し活用できる。
- 2 データ・AIの活用領域の広がりを理解し、その価値を具体的な事例を用いて説明できる。
- 3 データの収集、読み取り、分析ができ、適切な可視化手法を用いて他者に説明できる。
- 4 データ・AI利活用に関するリスク・モラルの基礎知識を習得し、これらを適切に利活用できる。

■ 実施体制

- ・ 情報処理教育センター運営会議のもと実施する。
- ・ 学生による授業アンケート、授業担当教員によるFD、就職先企業へのアンケート等を通じ、多角的な自己点検・評価を実施する。これらの結果を基に、プログラムの継続的な質の向上を図る。